

安養院釈迦四面像

(あんよういん しゃか しめんぞう)

板橋区指定有形文化財(歴史資料) 平成2年3月30日指定

所在地：板橋区東新町2-30-23 安養院

交通：東武東上線「上板橋」駅

徒歩15分

国際興業バス「小茂根三丁目」下車

徒歩3分

本像は、四面に扉がある厨子内に木片を組み上げて巖山を作り、木造の釈迦誕生仏・説法像・涅槃像を配することで八相成道を表したものです。

『新編武蔵風土記稿』によると、武田信玄の守本尊が紀州徳川家に伝わり、その後当寺に寄進されたと考えられています。

厨子の四面をそれぞれ時計回りに発心門・修行門・菩提門・涅槃門の四門になぞらえ、修行門の巖室内には釈迦説法像が安置されています。像の前の小扉を開くと内側に目蓮と迦葉の座像が配され、釈迦説法像の下方には鬼面を作り、それを開くと中に誕生仏が安置されています。また、涅槃門の巖山には下方へ開く扉があり、その中に涅槃像が安置され、扉の内側には蓮池を作り彩色を施し、扉を開くと像の前に蓮池が広がるようになっています。また巖山の両脇には円柱状の木に羅漢像が彫られ、回転できるように作られています。

厨子四面の内三面の扉と天井には、白衣観音や勢至菩薩などの仏画が描かれています。いずれも狩野派の作品で、狩野探幽や休白、安信、昌信らの落款などが認められます。

